奔流

題字揮毫・梅原猛

≪第30号≫
■発行
千曲川・信濃川復権の会
〒184-0012
東京都小金井市中町2-5-13
FAX・TEL 042-381-7770
■発行人・高橋　洋一（共同代表）
■編集人・矢間秀次郎（事務局長）
■〒振替・00120-0-710488

≪もくじ≫

■特集：「多摩地域の有機フッ素化合物汚染を明らかにする会」が今年8月に発足！
2頁・横田基地周辺の有機フッ素化合物による地下水汚染
…根木山 幸夫（多摩地域の有機フッ素化合物汚染を明らかにする会（準）事務局）
6頁・ウクライナ情勢を受けて、日本の原発はどうあるべきか
…松久保 肇（認定特定非営利活動法人 原子力資料情報室）

大河の一滴（30）

「原発政策の大転換」は亡国への道

古賀 茂明（古賀茂明政策ラボ代表）

8月24日、岸田文雄首相は、原子力発電所の「新増設」について検討するよう指示を出した。「現時点では想定していない」としていた姿勢の大転換だと大きく報じられたが、これはかなり前から想定されたシナリオである。

今年の冬、夏と日本では電力危機が叫ばれた。次の冬は、さらに深刻だと政府は叫ぶ。さらに、2050年カーボンニュートラルという目標達成には、火力発電増設は好ましくない。再生可能エネルギーを数か月で大幅に増やすのも困難。となれば、原子力発電しかないという議論が勢いづく。

そういう計算があるから、政府は再エネ拡大策も省エネ推進策もとらず、あえて電力不足を演出した。一方、政治の舞台でカギを握る立憲民主党は、連合との関係で、動きが鈍い。あとは、国民の脱原発世論だけが頼りだが、では、国民に即時脱原発の正当性を再認識してもらうにはどうすれば良いのだろうか。私は、国会で原発を保有する電力会社の首脳を集めて、正面から議論することを提案したい。そこで、野党側からの4つの質問をするのだ。

第1に、原発は民間耐震住宅並みの耐震性を備えるべきではないか。

第2に、事故の際の無制限の損害賠償責任保険をかけるべきではないか。現在の電力会社の備えは政府運営の一種の保険だけだが一基当たりわずか1200億円。原発は危険すぎて引き受ける保険会社がなく、電力会社の社長たちは答えに窮する。

第3に、避難計画を原子力規制委の審査対象にすべきではないか。避難計画が専門家未審査であることはあまり知られていない。

第4に、核のゴミ処理計画を1年以内に提出すべきではないか。社長たちは、1年では無理という。では2年でと言って審議を打ち切る。

耐震性の話に戻るが、原発事故の被害の甚大さと日本が地震大国であることを考えれば、原発の耐震性が安全性の要であることは誰でもわかる。

民間で耐震住宅を謳う三井ホームは最大5115ガルの揺れに耐える（「ガル」は、地震の強さを測る単位）。住友林業は3406ガル。21世紀の日本最大の揺れは、08年岩手・宮城内陸地震の4022ガル。東日本大震災は2933ガル。原発は、もちろん、これを上回る耐震性を備えるべきだ。

しかし、実は、日本の原発の耐震性は600～1000ガル程度に過ぎない。2000年以降日本では1000ガル以上の地震は18回も起きた。これを聞いた国民は、せめて民間並みの耐震性はもたせて欲しいと言うだろう。社長たちは、「うちの原発の敷地に限って大きな地震は起きない」と答える。もうこの一点だけでも「原発は動かすな！」となるはずだ。さらに、ウクライナを見て国民は原発が戦争で敵に狙われた時のリスクを思い知らされた。

電力不足と言っても、ピーク時に一部の地域で数％不足するというだけ。節電などで対応すれば経済への影響は極少化可能だ。

一つ予言しておこう。この秋、「柏崎刈羽原発を動かせ！」という動きが出るだろう。これは電力不足対策ではなく、経産省の事実上の子会社となった東京電力の経営救済のためである。

電力不足！に騙されてはいけない。

「多摩地域の有機フッ素化合物汚染を明らかにする会」今年8月に発足

～人体毒性が立証された〝永遠の化学物質〟PFOS・PFOA～

横田基地周辺の有機フッ素化合物による地下水汚染

根木山 幸夫（多摩地域の有機フッ素化合物汚染を明らかにする会（準）事務局）

はじめに〝奇病〟ありき―水俣病やイタイイタイ病は原因判明まで、鬼神にとり付かれたと忌避された。その轍を踏まぬよう住民自らが医学者の協力を得て、飲用する水道水等でPFOS・PFOAが体内にどう蓄積されたかの血液検査を行う。背景に「免疫系への害、癌リスクの増加、出生時の体重の低下など」（欧州環境機関EEAの「人への有害影響」研究報告）の警鐘が鳴り響く。

■有機フッ素化合物とは？

有機フッ素化合物（総称PFAS）の一種であるPFOSやPFOAの毒性について、低体重出産、発がん、コレステロール値異常、肝機能への悪影響などが指摘されています。

PFASは水や油をはじく、熱に強い性質を持つため撥水剤、乳化剤、水の膜をつくる泡消火剤などとして使用されています（身近なものとしてはフライパンや防水衣服、化粧品）。米軍は1960年代に航空機の燃料火災を鎮火するため泡消火剤を化学メーカーと共同して開発。日常的に消火訓練を行ってきました。

■有機フッ素化合物への規制

09年にPFOSは残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約で製造・保有・使用が禁止、PFOAも19年に禁止されました。しかし、日本では規制がなく、19年の沖縄米軍基地の地下水汚染を契機に玉城デニー知事が国に制定を要請。国は20年に水道水の暫定目標値を定めました（米国の飲料水の生涯健康勧告値にならう）。米国の環境保護庁（EPA）は6月、新しい生涯健康勧告値として従来より3千倍も厳しい値を示しました。

■横田基地周辺の井戸・水道水汚染

横田基地では、数十年にわたって泡消火剤を使った消火訓練を定期的に実施。放出された泡消火剤は空気中に拡散し、周辺土壌を汚染、長年にわたり地下水に浸み出しています。

18年12月10日の沖縄タイムスでジャーナリストのジョン・ミッチェル氏が米国情報公開制度により入手した米軍文書をもとに次のように報じました。

「米軍横田基地では10～17年に有機フッ素化合物PFOSを含む泡消火剤が計3161リットル漏出し、12年には泡消火剤3028リットルが貯蔵タンクから土壌に漏出した。しかし、漏出は日本側に通報されなかった。」

この報道後に東京都水道局は高濃度に汚染された地下水の水道水への利用を制限する動きに出ますが、外部には公表されませんでした。

20年1月6日、朝日新聞が都の情報開示資料をもとに、横田基地周辺の4

楽（らく）の音（ね）　ドイツの森と風のなかで

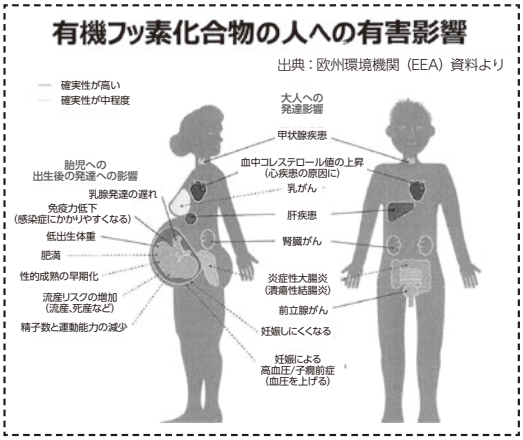
多田フォントゥヴィッケル房代 著　◇A5 判変形上製／164頁／2,220円＋税

ドイツという異国で、文化の違いに戸惑いながら懸命に暮らした半生。
音楽治療家として様々な背景を持つクライアントと交わるなか、音楽が人を癒し、
その人らしさを開花させる場面にいくつも立ち会っていく。
「生きていることと音楽」の不思議を豊かに詠う珠玉のエッセイ。

みなも書房 〒154-0024 東京都世田谷区三軒茶屋 2-28-4-106 電話 050-5879-3678 FAX 03-3487-4833 https://minamo.pub

カ所の井戸が高濃度に汚染と報道。さらに8日付は、府中・国分寺・国立3市の浄水所で19年6月に水道水から高濃度で検出、水源の井戸からの汲み上げを中止し、水源を川の水などに切り替えて濃度を下げたと報じました。

都は05年ごろから多摩地区でPFOSとPFOAの濃度を調査。国分寺市と府中市の浄水所の11～18年の計測結果を、2020年の都水道局のホームページに公表しました（図参照）。同ホームページでは、現在の水道水は汲み上げ中止により国の暫定目標値以下になった、飲んでも問題がないとしています。しかし、長年にわたって高濃度に汚染された浄水所の水道水を飲用してきた住民の体内にどれだけ汚染が蓄積しているかという問題には触れていません。



■沖縄の米軍基地で汚染・流出・放出

沖縄の米軍基地では、00年代から最近まで地下水・水道水汚染や流出などが繰り返し続いています。

嘉手納基地　米軍の内部文書から基地内で高濃度汚染（14～17年、13カ所で調査）。県企業局が16年、基地周辺の河川を水源とする北谷浄水場からPFOSが高濃度で検出されたと発表（那覇市など7市町村、45万人に給水）。

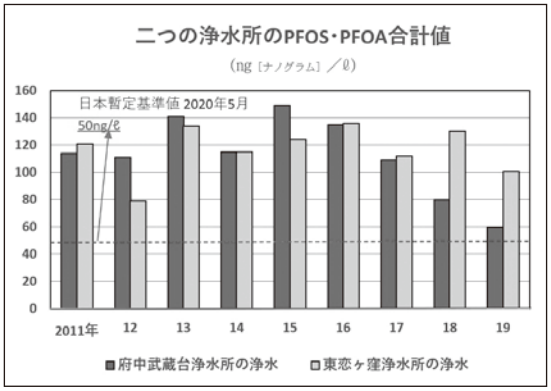
普天間基地　16年、基地に隣接する宜野湾市の公園の湧き水が高濃度汚染。20年、基地の格納庫で泡消火剤約22万リットルが放出。格納庫横でのバーベキューが原因で熱感知器が作動。泡消火剤は基地外に流出し、泡が住宅街に舞った。さらに21年、米海兵隊は基地の貯水槽にある6万リットルの汚染水を公共用下水道に意図的に放出。

■地位協定など基地立ち入りの壁

米国バイデン政権はPFAS規制を強化していますが、国内の米軍基地や工場からの汚染が対象。在日米軍基地については情報を出さず、無視しています。沖縄県は米側に基地内への立ち入りを求めているが認められていない。日米地位協定3条で米軍に排他的管理権を認め、日本側の立ち入り権が明記されていないことなどが障害となっています。環境補足協定（15年）も事実上空文化し、実行されていません。

■沖縄の汚染に対する住民運動

沖縄では早くから「有機フッ素化合物汚染から市民の生命を守る連絡会」が結成され、今年4月には宜野湾市民会館で県民集会を開催。6月から6市



▲東京都水道局2020年HPに発表の「2011年～2018年計測結果」を棒線グラフに一部加工。

流域治水がひらく川と人との関係

２０２０年球磨川水害の経験に学ぶ

嘉田由紀子 編著　大熊 孝 島谷幸宏 他著

２０２０年７月４日九州で球磨川水害が発生し、５０名もの方が命を落とした。被災者の生死を分けたのは何か？　被害を大きくした原因は何なのか？研究者と被災者たちによる共同調査から明らかにするとともに、気候危機の時代に求められる流域治水を展望する。●第４３回熊日出版文化賞受賞

●2420円（税込）
A5判 224頁

農文協　〒107-8668　東京都港区赤坂7-6-1　☎03-3585-1142　FAX 03-3585-3668　https://shop.ruralnet.or.jp/

町村350人を対象に自主的な血液検査を開始しました。

■**多摩地域での住民運動**

20年1月、新聞報道で汚染が明らかになると、周辺住民で水汚染の実態を知る学習会実行委員会を立ち上げ、2月24日に小泉昭夫京都大学名誉教授を招いてPFAS問題の学習講演会を開催しました（二百数十名参加）。

20年8月にダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議が府中市・国分寺市の住民22名を対象にして血液検査を実施。PFOSは日本人平均の1・5倍～2倍という結果が示されました。

21年秋に「多摩地域の有機フッ素化合物汚染を明らかにする会（準備会）」を立ち上げ、数百名規模の自主的な血液検査を進めようと呼びかけています。

8月7日、国分寺労政会館で会発足のつどいを開催します。

血液分析を担当される原田浩二京都大学大学院医学研究科准教授の記念講演や沖縄からの報告を予定しています。住民の体内にどれだけ汚染物質が蓄積されているかを明らかにし、米軍・国・都に解決を迫っていきたいと考えています。

（7月12日記）

●連絡先：根木山幸夫（〒191-0033日野市百草999-134-311 ☎042-593-2885）

●参考文献：ジョン・ミッチェル、小泉昭夫、島袋夏子共著『永遠の化学物質 水のPFAS汚染』岩波ブックレット。

●公式ホームページ：https://tamapfas.wixsite.com/info

子どもたちの未来を奪わないために決起

血液調査で人体への汚染実態を探る

高橋 美枝子（横田基地の撤去を求める西多摩の会）

■**住民の自主的な血液検査がスタート**

私が東京都の羽村に越してきたのは50年前でした。当時は、まだ町でしたが自力で市になり、現在人口は5万5千人弱です。

1653年には、多摩川の羽村から新宿四谷まで全長42・74キロメートルの玉川上水が築かれましたが、今でも羽村取水堰や玉川上水は観光スポットです。羽村の水道水は地下水でおいしい水ですが、果たして安全でしょうか？

羽村に限らず三多摩には湧き水もあり、環境に恵まれた地域のはずでした。が、近年、米軍横田基地周辺の井戸水が有機フッ素化合物に汚染されていることが判明。さらに水道水源の地下水が汚染され、住民の血液からも検出されたこともわかりました。

さる8月7日、「多摩地域の有機フッ素化合物汚染を明らかにする会」を立ち上げました。住民の自主的な血液検査でどのように汚染が体内に蓄積されているかを明らかにするため、原田浩二先生のご協力を得て、採血希望者を募ることにしました。

米空軍横田基地は、戦後米軍に接収され77年経ちます。毎日、米本国からも大型の輸送機や空中給油機が飛来し、横田基地の輸送機やオスプレイは住宅地上空を飛び回っています。

横田基地は環境面でも様々な被害をもたらしました。沖縄の嘉手納基地周辺で燃える井戸水事件がありましたが、横田基地でも1967年、燃料漏れで昭島市内の68の家庭用井戸水が汚染された「燃える井戸水事件」がありました。1993年には68000リットルの燃料漏れ事件が発生。2012

地域の皆様のご愛顧をいただき、 誠にありがとうございます

株式会社 大沢ガーデン　地域と共にある造園会社

お問合せ、ご相談はお電話で受付けております。どうぞお気軽にご相談下さい。マンション・アパートの植栽管理も承っております。

株式会社 大沢ガーデン
〒181-0015　三鷹市大沢 1-13-1

お問合せ　TEL 0422-57-8457　FAX 0422-57-4896

大沢ガーデン

http://osawagarden.jp/

年には３０００リットルの泡消火剤漏れもありました。

そして、横田基地周辺では、長い間有機フッ素化合物の入った泡消火剤で航空機の消火訓練が行われており、それが土壌に浸透し、広い地域の地下水を汚染しているのです。

■**真実に光をあてる闘い**

実在の弁護士を描いた映画『ダーク・ウオーターズ～巨大企業が恐れた男』（トッド・ヘインズ監督）を見ました。大手化学メーカー、デュポン社の工場からの廃棄物が流れ込んだ小川の水を飲み、１９０頭の牛が狂ったように次々と死んでいったことを訴えられたのが始まりでした。この汚染水が人体に影響がないはずはありません。調査で、肝臓がんなどや甲状腺疾患、妊娠高血圧症などの病気が明らかになりました。

敢然と、「巨大企業の隠蔽を暴き、独りで闘った弁護士の実話」だけに、迫真力がみなぎった映画です。そのチラシコピーに「真実に光をあてるために、どれだけのものを失う覚悟があるのか―」と記されています。水俣病、イタイイタイ病などの日本公害史にも通底する被害住民の闘いは、人口の多い都市でより深刻な局面にあると考えます。

今年、米環境保護局（ＥＰＡ）が、飲料水の有機フッ素化合物ＰＦＡＳの生涯健康勧告値（人が一生飲み続けても健康に影響が生じないとみられる値）をＰＦＯＳとＰＦＯＡの合計で１リットルあたり０・０２４ナノグラムとしました。これまでより３０００倍近い厳しい値です。

それだけ有害な有機フッ素化合物が、三多摩の水道水を汚染し、未来を生きる子どもや孫たちの命を脅かしています。待ったなしの大問題です。安全な水を取り戻しましょう。

●参考文献

諸永裕司著『消された水汚染～「永遠の化学物質」ＰＦＯＳ・ＰＦＯＡの死角』平凡社新書。

ジョン・ミッチェル著『追跡　日米地位協定と基地公害』岩波書店刊。

●会則抄録〈現在、会員260人〉

第2条（目的及び指針）

（1）本会は、千曲川・信濃川の現状を憂い、かぎりなく河川を愛する人々、諸団体等の叡智と情熱を結集し、名実ともに日本一の大河に復権させることを目的とする。

（2）この目的を完遂する行動指針として、「水系一環の原理」をすえ、活動領域を本流にとどめず、支流や農業用水、小川、湖沼、運河、そして、「森・川・海とマチを結ぶ」ネットワークに努める。真に里人や市民の暮らしが安全で豊かなものになるよう地域の伝統と文化をふまえ、水環境のあり方を問い直す実践をしつつ、「全原発廃炉促進法」、「ダム撤去推進法」等の制定をめざす。

第3条（構成）

（1）本会は、第2条の目的及び指針に賛同し、所定の入会手続きを得た市民、団体等の環境ボランティアで構成し、国籍、年齢を問わない。

（2）世話人及び会員の活動は無報酬とする。但し、機関決定をした活動等の諸経費は予算書により費用弁償を行う。

第4条（入会及び退会等）

（1）入会を希望する人（団体）は、本会所定の郵便局「払込取扱票」の全項目を記入・署名のうえ、第5条所定の会費を納めなければならない。

第5条（会費及び活動・事業）

（1）本会の活動は会費及び寄付金、その他の収入によって運営される。年会費は、下記の通りとする。但し、年度途中で入会した場合にも同額とする。

①正会員：1口　1，000円を3口以上納めた方。

②賛助会員：1口　1，000円を1口以上納めた方。

広大な裾野に湧く泉　～水脈を掘る～

右『野川を清流に』、当会前々身の三多摩問題調査研究会が1973年創刊（B5版片面タイプ印刷で100部。後にオフセット印刷、12,000部発行、会長：本谷勲・東京農工大学教授、76号で1995年終刊）。左『ATT』ATT流域研究所が1993年創刊（関東三大河川のイニシアル、「分水嶺を越えて」総合研究の理念、理事長：小倉紀雄・東京農工大学教授。B5判8頁2,200部、後に16頁5,000部、2005年36号で廃刊）等が伏流して『奔流』が2010年に創刊された・・・。

●このスペースは、C企業がご提供くださいました。深謝！

ウクライナ情勢を受けて、日本の原発はどうあるべきか

～真剣な国民的議論のために～

松久保 肇（認定特定非営利活動法人 原子力資料情報室）

2月24日のロシアのウクライナ侵攻開始から、すでに半年近くが経過した。両国とも多くの死傷者がでており、ウクライナの避難民は国内外あわせ1000万人を超える。ロシアは直ちにウクライナから撤退するべきだ。

この戦争では史上初めて、稼働中の民生用原発が攻撃対象になった（ロシアも批准する戦時国際法のジュネーブ条約は原発への攻撃を禁じている）。攻撃されたのは欧州最大規模を有するザポリージャ原発だ。3月4日、ロシア軍が原発敷地内に侵入、軍用車両などから放たれた砲弾の一部は原子炉建屋近傍にも着弾した。以来、同原発はロシア軍の占領下におかれている。原発の運営自体はウクライナ人が行っているものの、ウクライナ原子力公社エネルゴアトムは、ロシア側による職員への暴行、連れ去りなどを報告している。また原発の軍事基地化も進められており、すでに一部建屋内には軍用車両が格納されているという。なお、ウクライナ側は、原発の武力による奪還は危険が大きすぎるため考えていないという。取り戻す場合、原発に駐屯するロシア軍を孤立させ、自ら撤退するよう仕向けることになるだろう。

▲六ヶ所再処理工場（出典：日本原燃㈱ウェブサイト）

ロシア軍は一時、南ウクライナ原発から30㎞まで迫った。ウクライナは電力供給の5割以上を原発に頼っており、占領されると電力が人質にとられかねない。原発は戦略目標として狙われたのだ。これまで原発への攻撃で想定されてきたのはもっぱらテロリストなどの非国家主体によるものだった。国による原発攻撃は想定されても対処されてこなかった。だが、今回ロシアは原発を攻撃したのだった。

◆日本への教訓

原発への攻撃は多大な危険を伴う。格納容器・圧力容器が破壊され、放射性物質が外部に出ることも考えうる。そこまで至らずとも、冷却機能を失えば、福島第一原発事故のように、燃料の溶融、水素爆発に至ることもあり得る。

また原発には大量の使用済み燃料を格納するプールがあり、これが冷却できなくなれば、燃料が溶け、放射性物質が大量に環境に放出される。ほかにも、ザポリージャ原発では攻撃により火災が起きたが、ロシア軍は一時、消火活動を阻止した。

そうでなくとも戦闘中の消火活動や損傷箇所の応急措置は困難を極める。戦争長期化もリスクだ。燃料や修理に必要なパーツ供給が難しくなるし、原発がつながる送電網切断により冷却に支障が出ることもあり得る。占拠長期化による原発職員へのストレスも大きなリスクだ。

仮に、ロシア軍がザポリージャ原発を破壊すれば、ウクライナのみならず、地続きのロシアなどにも甚大な被害が発生するため、常識的には原発の破壊は

考えにくい。翻って、日本が攻撃される場合はどうか。それは、交戦相手が何を目標に置くかで変わる。日本の交戦能力を奪う場合、ミサイルなどでの原発破壊もあり得る。日本の占領であれば、意図的な原発破壊の可能性は低いが、原発占拠はあり得る。

日本政府は原発を厳重に警備するという。だが、原発防衛では単に占拠させないだけではなく、原発を安全に防衛する必要がある。そんなことは本当に可能なのか。日本の商用原発は海沿いにあることから、防衛は困難を極めることは容易に想像できる。他にも戦闘中の周辺住民避難方法、原発占拠時の対処方法など、多くの疑問が浮かぶ。

原発だけではない、日本は使用済み燃料からプルトニウムを分離する再処理工場を青森県六ヶ所村に建設中だ。すでに同工場には大量の使用済み燃料や高レベルの放射性廃液などが溜まっている。ジュネーブ条約は再処理工場などの原子力関連施設への攻撃は禁じていないが、危険性は原発を上回る。プルトニウムは核兵器に転用できる。六ヶ所再処理工場を年間最大8トンのプルトニウムを分離する能力を持つ。他国やテロリストなどに占拠された場合、分離したプルトニウムを盗取されかねない。世界的核拡散に繋がりうる。

２０２１年度の日本の電力供給に占める原発シェアは8.7%。２０３０年には20～22%に増やそうとしている。国民・国際社会を危険にさらしながら原発・再処理工場を運転することは許されるのか。真剣な議論が必要だ。

「原発を並べて自衛戦争はできない」執筆から15年

小倉 志郎（元原発技術者・賛助会員）

◆ウクライナ戦争と原発

今年の２月24日にロシア軍がウクライナに侵攻し、「ウクライナ戦争」が始まると間もなくチェルノブイリ原発がロシア軍に攻撃され占拠されたという衝撃的なニュースが流れた。これは原発が戦争という環境に曝された歴史上初めての出来事だ。大量の放射性物質を溜め込んだ原発が破壊されたら、破局的な被害が生じるから、固唾を飲んで見守ったが、幸いロシア軍は場所を占拠しただけで、原発の破壊はせず、管理はウクライナの運転員に任せ、間もなく作戦変更により撤退していった。

どういう経緯かは不明だが、原発が破壊されなかったのは幸運だった。使用済燃料貯蔵設備をミサイルが直撃していたら、大量の放射能が環境に放出されて、ウクライナはもちろん北半球諸国にも大被害を与えていたはずだ。

◆恐る恐る書いた「原発を並べて自衛戦争はできない」

２００７年に季刊誌「リプレーザ」Vol.３夏号に、同誌の編集者の一人で小学・中学・高校で一緒だった友人Nから「原発について何か書けよ」と言われて私が投稿したのが「原発を並べて自衛戦争はできない」という小論文だった。私が原発メーカーに35年間勤め、２００２年３月末に定年退職してから５年が経った時に執筆の誘いがあったわけだ。厳しく、且つ、被ばくの危険性がある仕事から解放されて、原発とはかかわりのない生活に慣れかけていた。私が書くとすれば原発の危険性を示して、全ての原発を即時廃炉にすべしという内容にならざるを得ない。そんな内容の文章を公に発表するのは、利権の塊である原子力産業に「水を掛ける」ことで、どんな危険が身に及ぶかわからない。そこで執筆を即断った。しかし、原発の設計、建設、保守点検、ト

深大寺そば・甘　味
多聞
●神代水生植物園入口
電話 0424（85）4043

ラブル対応の体験を通じて私が知りえた原発の様々な弱点や危険性について、原子力産業界の外にいる国民が知ることはほとんど不可能であることを考えると、自分の知り得たことを書かずにあの世へ行ってしまって良いのか？一晩の内に考え直して、友人Nに「筆名でなら書いても良い」と連絡し、「山田太郎」という筆名で書くことになった。

最初は技術者として知り得た原発の危険性を一般国民に解説することを目標としたが、書き始めると原発の様々な弱点と危険性、チェルノブイリ原発の破滅的事故、中東の熾烈なゲリラ戦などが心の中で溶け合って、小論文の柱が自然に「原発と戦争との密接な関係」に落ち着いた。そして、題目は「原発を並べて自衛戦争はできない」となり、次のような結論で書き終えた。

A．原発に対する武力攻撃には、軍事力などでは護れないこと。したがって、日本の海岸に並んだ原発は、仮想敵（国）が引き金を握った核兵器であること。

B．ひとたび原発が武力攻撃を受けたら、日本の土地は永久に人が住めない土地になり、再び人が住めるように戻る可能性が無いこと。

この小論文を投稿した4年後の2011年3月11日、東日本大震災が起き、地震とそれに伴う大津波により、東京電力福島第一原発が「3・11フクシマ」と呼ばれる過酷事故が起きてしまった。同事故により放出された放射性物質は福島県を中心に、北は北海道、南は関東、中部地方まで広がり、事故発生から11年余りが経つ今も事故収束の目途が立たない。事故が起きた原因は違えど、武力攻撃を受けても同じような事故が起きるのであり、はからずも「3・11フクシマ」は小論文の結論Bを実証してしまった。

◆これからどうするか？

「原発を並べて自衛戦争はできない」というタイトルが日本の常識になれば、自衛隊の保有も米軍の駐留も不要になり、まさに憲法9条の文言をそのまま実践すれば良いことになる。そう考えて、「リプレーザ」誌から抜き刷りした小冊子を今までに5万6千部を印刷して機会あるごとに普及に努めてきた。しかし、ウクライナ戦争勃発後の日本の政界、言論界の反応は「軍備を倍増すべき」が主流となっている。

これまでの私の宣伝力が足りなかったことを思い知らされている。しかも、大手マスメディア各社の論調は政権への忖度か「憲法9条厳守」というものはほとんど無い。6年前から始めた私流の「一人デモ」をさらに宣伝力に工夫を加えて続けようと決意している。（了）

第五福竜丸に託した願い

～核なき平和な世界を～

榛葉 文枝（元和光中学校教諭）

◆出会いと別れ

元第五福竜丸乗組員の大石又七さんと出会って38年目に、大石さんが急逝されました。それはまた、第五福竜丸がビキニ環礁でアメリカの水爆実験の被害に遭った1954年3月1日から67年を経た直後の昨年の3月7日のことでもありました。

密かに参列させて頂いた葬儀、遺影の前で私はそっと呟きました。「大石さんの想いを継いで行動すること、お約束します」と。

◆和光学園と大石さんとの絆

大石さんが亡くなった直後の4月、元勤務校である和光中学校の入学式で橋本暁校長は大石さんと和光中学生との出会いを全校生徒に語りました。

1983年秋、和光中1年生6人が第五福竜丸展示館を訪れ、大石さんと出会ったこと、文化祭の調査研究のた

理念を活かした旅づくり

Peace Green Humanity

富士国際旅行社は、旅行業務を通じ、
平和な世界、民主的な社会の実現に貢献し
健康で文化的な旅行・レジャーの発展を目指します

歴史と平和の旅
自然と環境・文化の旅
視察・交流の旅

「いい旅いい仲間」▶
当社の企画、特集記事が満載の旅雑誌です。ご希望の方にお送りしますのでぜひお問い合わせください。

企画・実施資料請求　観光庁長官登録旅行業第84号　JATA正会員
(株)富士国際旅行社
〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-7 ヒューリックみなとみらい11F-4
tel：045-212-2101 fax：045-212-2201 mail：henshu@fits-tyo.com

めにとの質問に答えて、被爆当時の体験を初めて語ってくれたこと、その中に一人の盲目の少女・高橋しのぶさんがいて、その少女にも船のことが手で触れて分かるようにと1／50の模型船を作り、2年後の3月、和光中学に寄贈されたことなど話しました。

続けて校長は、君たちの先輩が、30年間大石さんが心に秘めていた思いを語り始めるきっかけの一つになったと、中学生でも出来ることは沢山あると述べました。加えて核の恐ろしさや平和についてこの学園でしっかり学んで欲しいと語りました。

和光中学は大石さんが亡くなったことを契機に、第五福竜丸の存在意義と核なき世界を願った大石さんの遺志を受け継ぐことを誓うかのように、各方面からの取材を積極的に受け入れ、私も同席しました。

さらにその後、校長は「和光学園と平和教育」と題して座談会を計画しました。座談会は後の和光生8人が大石さんに教えてもらいながら2006年に完成した第五福竜丸模型船・9号船が飾られてある丸木美術館で行われました。

丸木美術館の理事・小寺隆幸さんと和光の卒業生（現大学生）の中山美亜さんと橋本校長と榛葉の参加で語り合われた座談会は学園報に掲載され、卒業生や父母などにも配布されました。

▲第五福竜丸模型船（9号船）に取り組む生徒たちと大石さん《2003年撮影》

◆マグロ塚を築地市場跡へ

大石さんの願いが託された「マグロ塚」を築地に設置する運動も再スタートします。放射能で汚染されたマグロの供養と感謝の思いを寄せて大石さんによって作られた「マグロ塚」は、現在第五福竜丸展示館脇の公園内に設置されています。全国の子ども達に呼びかけ10円募金で資金を集め作られた塚をマグロが埋められている築地に設置し、道行く人々に「核兵器の怖さと平和の尊さをさり気なく訴え続けたい」というのが大石さんの願いです。

ビキニ事件から65年を経た2019年3月1日、「マグロ塚を築地に作る会」は6243筆の署名を集め、東京都議会議長・都知事に提出しました。未だ果たせぬこの願いを、2年後のビキニ被爆70周年に再度東京都に請願することを考えています。

築地にマグロ塚を作る会は、9月23日・久保山愛吉さん（無線局長）の命日に、ZOOM会議を開きます。

◆亡き大石又七さんと共に

ある秋、大石さんと一緒にマグロ塚の脇に花の種を沢山蒔きました。春に小さな可愛らしい紫の花がいっぱい咲きました。花の名は紫金草。紫金草は戦時中南京から種を持ち帰った一人の日本人が育てた花で、日中友好をめざす花・平和の花と呼ばれています。「被害と加害が隣り合っているのも一つのメッセージになるね」と大石さんは種まきに賛成し手伝ってくれました。

内に秘めた怒りは激しくとも、大石さんの表情は、いつも優しさに溢れていました。固い拳は内に潜め、穏やかに楽しく運動を進めることの大切さを私は大石さんから学びました。

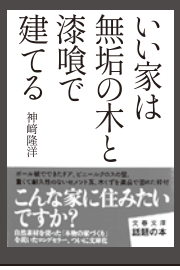
ウクライナ戦争による世界情勢は予断を許さぬ状況にあります。この危機の中で私に出来ることはほんの僅かですが「核のない平和な世界」をめざして大石さんと共に進んで行こう、と改めて心に刻むこの頃です。

土に還る 自然の材を生かす建築

一歩足を踏み入れた瞬間から、無垢材の美しさ、
そして、清々しい空気を感じていただけるはずです。
是非本社モデルハウスへお越しください。

無垢の木と漆喰の建築 カンザキ建設

資料請求された方にプレゼント



〒167-0035 東京都杉並区今川 3-20-5 TEL.03-3397-1150 | https://kanzaki-architects.com

読書の友 ―あすのために―

慟哭の日本戦後史
ある報道写真家の六十年
樋口　健二 著
こぶし書房・2200円＋税

著者は、八ヶ岳山麓の故郷を離れ、日本鋼管のクレーン運転手だった時、偶然「ロバート・キャパ」展を観たことがきっかけで、写真家への道を歩んだ。大気汚染の町・四日市、毒ガスの島・大久野島、闇に消されようとする原発労働者たち。取材は困難を極め、生活はいつも苦しかった。この本が圧巻なのは、撮影現場で交わしたやりとりの一語一語、場面のひとつひとつが見事に蘇るところだ。ただ写真を撮ればいいというのではない。被写体となったひとたちの人生の意味を理解し、その無念を世に届けようとした。

原発で被曝し健康を損ね、日本で初めて国や企業を相手に裁判を起こした岩佐嘉寿幸さん。メディア不信のかたまりだった岩佐さんは、著者だけを信じ、自宅や病院など、全てを撮らせた。著者の目線は、レタス農家を諦め工場労働者を志した若き日から変わらない。揺るがぬ人生に、感動とひとの尊さを見る。

永田　浩三（武蔵大学教授）

流域治水がひらく川と人との関係
～2020年球磨川水害の経験に学ぶ
嘉田　由紀子 著
農文協・2200円＋税

球磨川は「九万川」と言われるくらい支流が多い。もともと地質的にも崩れやすい山地を流れている。どうして大水害が起ったのか―丹念な現地調査をふまえ、いのちを守る治水とは何かを探り、「川と共に生き続けるための流域治水のあり方を問う」時宜を得た一冊である。

豊かな森林に覆われている山ほど、多くの水を蓄えることができ、健全な治山治水を保つ。しかし、ここ球磨川流域は、戦後の「拡大造林」で自然林を伐採して、スギ、ヒノキなどの針葉樹の人工林が増えた。

20年ほど前から木材需要を賄う大規模な皆伐が行われ、支流沿いの山々がはげ山になって、森林保水力の低下が水害の主因と考える。気候危機の時代、球磨川水系を覆うように梅雨前線が停滞し、線状降水帯も発生して、土石と流木を運び出す激甚水害を招いた。流域の総合力を結集した治水のあり方が問われている。

大久保　通禮（正会員）

コロナ危機と未来の選択
パンデミック・格差・気候危機への市民社会の提言
アジア太平洋資料センター 編
コモンズ・1200円＋税

実は出版直後、書評を書き送ったが、高齢者には苦手なデジタル社会、記録を再現できず、1年3ヵ月後、84歳の筆者は再読し書き送った。その間もコロナ禍は、簡単に収まらず春にはロシアがウクライナに戦争を仕掛けた。日本では猛暑の7月、選挙運動中に安倍前総理が襲撃され命を絶たれた。

この本に書かれた市民社会への問題提起、グローバル経済の矛盾、ポスト資本主義、人権、環境と開発の課題などの危機への対応をどう考え、公正で強靭かつ持続可能な世界を実現していくNGOから10の提言をしている。

特に嬉しかったのは、『ミュニシパリズム（地域自治主義）がひらく～公共と自治を取り戻す』を書かれた岸本聰子さんが、7月の杉並区長選に仲間と共に短時間の運動の中、187票の僅差で当選したことだ。著者たちの訴えを共有し、各自のミッション・パッション・アクションに役立てればとの思いを強くした。

佐藤　禮子（豊島区在住）

増補版
揺るぎの時代を生き抜く
環境運動50年の奔流
千曲川・信濃川復権の会事務局長
映画プロデューサー
矢間秀次郎〔著〕

かつてない“揺るぎの時代”の到来――流動化が進み、既成の価値観や社会システムにしがみ付いても、揺るぎが沈静化する保証はない。守るべきものはなにか、変革すべきはなにか。東京都職員でありながら、日本の河川行政の問題点を真正面から切り拓き、市民とともに全国の環境運動を盛り上げてきた50年のあゆみ。　■四六判／296ページ／1800円＋税

全国書店で注文受付中

合同出版　〒184-0001 東京都小金井市関野町1-6-10　電話 042-401-2930　FAX 042-401-2931　https://www.godo-shuppan.co.jp

●映画「悠久よりの愛」を見て②

わが原風景に映画製作の原点

～踊る阿呆に観る阿呆～

矢間　秀次郎（プロデューサー）

こころが折れそうな「危機の時代」である。人それぞれの心奥にどんな原風景が宿っているだろうか。先の戦争で無条件降伏の敗戦をしてから77年の歳月を刻む。齢82になっても、鮮烈によみがえってくる・・・。

１９４５年春、大阪大空襲を防空壕で生き抜き、徳島県三縄村（現・三好市）へ疎開したが８月に終戦。母に連れられ小学校校庭でラジオの玉音放送を蝉しぐれの下で聴いた。その日、夕飯で食した吉野川小歩危で獲れた天然鮎の香りが今もかすかに匂う。まさに、「国破れて山河在り」を体感した。

やがて朝鮮戦争の特需景気で戦後復興に拍車が増す。経済成長で「不死鳥」と世界に礼賛された驕りからか、水資源開発促進法などが生まれ、日本列島改造で巨大ダムの建設ラッシュ、今や既存ダム２７５０基に及ぶ。各地の原風景が「鉄とコンクリート」で破壊され、その公共事業のツケを払うように昨今、大水害や山地崩壊が頻発し、因果がめぐる。

吉野川でも「小歩危ダム」計画が１９５０年に浮上。小競り合いがあったものの、地元住民たちが敢然と反対運動に立ち上がった。

「幽玄な渓谷美を人造湖に沈めてはならぬ」と県・国へ陳情、原風景で連帯を育みながら、ついに１９７０年ダム建設計画を中止させた。

その背景にローカル紙（徳島新聞）の誉れがあったことを忘れてはならない。

「惜しまれる大歩危渓谷美、地質学的でも〝宝庫〟ダム建設で４キロが湖底に」の大見出しで報道。その後も、「建設中止」までを丹念に追跡したマスコミの原点がうかがえる。

今や国策に抗い市民の盾になるマスコミ報道は少ない。世界第三位の原発大国づくりに加担した「不都合な真実」が、３・11福島原発事故であらわになった。阿波踊りは「踊る阿呆に観る阿呆」と囃したてるが、現在進行中の人類史未曽有の放射能汚染に、「踊らされたリアル」を噛みしめているだろうか。

還暦に吉野川を再訪し、大歩危で鮎料理を食したが、往時の香りはなかった。老いた伯父曰く「上流に早明浦ダムが造られたけん、天然鮎はおらん」故郷の訛りに悔しさがにじむ。

もうわが国に「不死鳥」の翼はない。歴史に学び、理不尽な公共事業のあり方を問い直すよすがにと、原風景を守り抜く展望を映画に託している。

＊筆者は１９９３年シグロ製作『あらかわ』に関与。２０１３年『シロウオ～原発立地を断念させた町』、２０１８年『いのちの岐路に立つ～核を抱きしめたニッポン国』を製作。

＊写真は、球磨川「荒瀬ダム」撤去後の旧ダム湖に清流が戻り、モクズガニ漁をする鶴之湯旅館の大山大典さん。

映画『悠久よりの愛』上映会案内

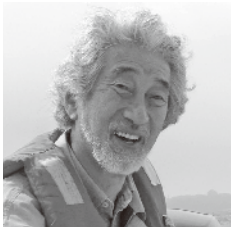
「理不尽な公共事業NO!の会」発会記念

日　時:11月5日（土）12:30開場、13:00上映（上映後、プロデューサーのトーク、馬奈木弁護士講演など16:00終了予定）
会　場:福岡県弁護士会館（地下鉄七隈線「六本松駅」3分）
参加費:@1000円
連絡先:電話090-3602-3842（荒木）、メールimaa.kik@gmail.com（今村）
主　催:理不尽な公共事業NO!の会

第39回日本映画復興奨励賞受賞

悠久よりの愛

～脱ダム新時代～



▲気仙沼の漁師・畠山重篤さん。「森は海の恋人」植樹祭を32年前に始め、ダム建設を阻止した。

全国各地に既存ダム2,752基、治水・利水の大義名分も多発する水害で揺らぐ。もう国土にダム建設の適地はない。「人類の未来を阻害するダム」を撤去する脱ダム新時代をひらくヒントが充満。故郷を愛する人々への賛歌が響く・・・。監督：金子サトシ。

▲京都「志明院」田中真澄住職、京都1000年の文化をかけて「鴨川ダム」計画を白紙撤回させた。

本映画の上映会を開催して下さる方を募集しています。
貸出条件や上映会のお申込みについては、上映委員会・矢間までご連絡を！

〒184-0012　東京都小金井市中町2-5-13
TEL・FAX:042-381-7770
https://yukyuyorinoai.art.blog/

水系博物館・美術館めぐり㉚

木力館

木の魅力を五感で体感

弓削　悦子（編集委員）

「若い木は食欲旺盛。炭酸ガスを吸収し、地球温暖化防止に貢献する。成熟すると食欲は落ちるが、油を蓄えて粘り強くなり、腐りにくく優秀な建材となる。木には樹齢により活かし方がある。しかし今、国産材離れが進み、森林は荒廃している」

木の良さを知ってほしいと、材木業を営む大槻忠男さんが建てた木の博物館「木力館」。無垢材や漆喰など自然素材のみを用い、大工の技を駆使した延べ床面積86坪二階建ての建物だ。

館内は木の香りに満ち、訪問した日は気温37度の猛暑日だったが、扇風機だけで快適に過ごせる。木の断熱効果と湿度調整力に驚いた。

車で数分の別館「館長の家」は平屋建ての日本家屋。キッチン・バス・トイレまですべて自然素材で作られている。住宅相談に訪れた人にここで木の家の良さを体験してもらうという。

次世代に木の魅力を伝える活動にも力を入れる。地元の保育園に県産材の積み木を贈り、小中学校ではカンナがけ体験等を開催。木の香りは生涯忘れないはず、と子供たちに未来を託す。

自然と共生する健康的な住まいの普及を願って大槻さんは奮闘している。

●所在地＝埼玉県さいたま市岩槻区新方須賀558-2。
開館時間＝10時～16時。（休憩時間：12時～13時）。別館見学は要予約。
休館日＝年中無休（年末年始等要確認）
交通手段＝東武野田線岩槻駅／東武伊勢崎線越谷駅よりバス。
入館料＝無料。
☎048-799-1560
＊次号は「中帰連平和祈念館（埼玉県川越市）」の予定。

水の輪

▼2010年創刊から12年余、お陰様で30号を迎えました。遅々たる歩みですが、会員、協賛広告出稿者、なによりも読者に恵まれての到達点、御礼申し上げます。▼内外共に環境問題は、より複雑怪奇な状況で国土崩壊の危惧を禁じえません。「最大の環境破壊」は戦争です。“核の恫喝”でプーチンのウクライナ侵略が始まっただけに戦争による唯一の被爆国ニッポンの視座が厳しく問われます。　（石橋　浩治）

▼1972年に当会の前々身・三多摩問題調査研究会が冊子『水辺の空間を市民の手に』を刊行し、水俣病センターの記事を掲載。西武百貨店で開催の「ユージンスミス写真展」に協賛し、会場で頒布。その表紙にご夫妻がサイン。

この“宝物”を示して50年ぶりにアイリーン・美緒子・スミスさんに再会できた。ジョニー・デップ製作／主演の映画『MINAMATAミナマタ』〔©Larry Horricks、提供：ロングライド☎03-6264-4113麻生〕が今春、東京学芸大学で上映された賜物。「一枚の写真が世界を呼び覚ます感動作」の自主上映会を開催しませんか。　（矢間　秀次郎）

▼7月下旬、函館市に赴き、工藤壽樹市長にお会いした。函館市は大間原発の建設差し止めを求めて裁判を起こしている。原発建設差し止め訴訟を起こした自治体は、函館市だけだ。裁判に至る思いをじっくりうかがった。翌日は寿都町と神恵内村へ。いずれも「脱原発をめざす首長会議」の活動です。詳しくは、当会のホームページを。▼本号は㈱共同印刷所で5,500部印刷、次号は3月の予定。　（佐藤　和雄）

好評発刊中

地図から消えた村 琵琶湖源流七集落の記憶と記録

びわ湖の北、湖に注ぐ高時川（丹生川）の源流域にあった7つの集落が、地図から姿を消しました。製炭業の不振による、生活の糧の先細り、そこに起こったダム建設問題…。
一人のアマチュアカメラマンによる膨大な暮らしの記録を、未来への指針となる写真集です。

吉田 一郎 著者　B5版　216頁（カラー48頁）上製本カバー付き　1冊3,850円（税込）＋送料370円
出版社／ サンライズ出版

■発行　湖北アーカイブ研究所　〒526-0001滋賀県長浜市国友町918
E-mail:info@kohoku-archive.jp　電話&FAX.0749-62-4074